

## 〈第25回環境システム計測制御学会 (EICA) 研究発表会〉

## 全 体 報 告



Photo. 1 研究発表会の様子

第25回環境システム計測制御学会 (EICA) 研究発表会ならびに見学会は、10月31日(木)～11月1日(金)の2日間にわたり、宮城県仙台市および周辺見学地において開催・実施されました。本研究発表会は、本学会が関東地区または関西地区と全国各地を交互に巡回開催しており、各地域での活動を広げています。本年は東北大学大学院 環境科学研究科様のご協賛、宮城県様ならびに仙台市様のご後援を賜り盛大に開催を致しました。

研究発表会は東北大学片平さくらホールをお借りして開催され、発表会場がほぼ満席となる153名もの皆様にご来場を賜りまして、一般論文/概要発表・パネル前ディスカッションと、査読論文/口頭発表が行われました。また翌日の見学会においても、見学用の大型バスがほぼ満席となる盛況となりました。

開催にあたり実行委員長にご就任頂きました谷口尚司氏 (東北大学大学院 環境科学研究科 教授)、ならびに李玉友氏 (同 工学研究科 教授)、吉岡敏明氏 (同 環境科学研究科 教授) に大変なご尽力賜りましたこと、また関係各位、ご参加いただきました各位に厚く御礼申し上げます。以下、本研究発表会の全体概要についてご報告致します。

研究発表会は、田路和幸氏 (東北大学大学院 環境科学研究科長 教授) の開会ご挨拶に始まり、来賓ご挨拶として本木崇氏 (宮城県環境生活部 部長) の代理として高橋俊光氏 (宮城県環境生活部 次長)、主催者代表としてEICA会長 清水芳久氏 (京都大学大学院 教授) よりご挨拶を頂きました。

続いて一般論文/概要発表があり、座長を高岡昌輝氏 (京都大学大学院



Photo. 2 会長挨拶 (清水会長)

環境システム計測制御学会 企画委員長

山田 顕 寛

(株日立製作所)

環境システム計測制御学会 企画副委員長

後藤 久 明

(株東芝)



Photo. 3 一般論文/概要発表 (座長 高岡氏 (右)), 副座長 後藤氏 (左))

教授)、副座長を後藤久明氏 (株東芝) として、官公庁・大学・産業の各界から環境システム分野の研究者、技術者による自然・再生・未利用エネルギーの活用や資源化、活性汚泥応用・汚泥焼却技術、設備計画支援技術や基本計画策定などの18編の発表がありました。その他に2012年10月29日にアメリカ東海岸を襲ったハリケーンサンディによるニューヨーク市他の下水道被害調査報告が行われ、発表後はパネル前での活発なディスカッションが行われました。

午後は座長を橋本征二氏 (立命館大学 教授)、副座長を田中良春氏 (メタウォーター株) に代わりまして、査読論文のセッションが行われました。発表では、「水道料金格差の是正方法に関する研究」、「風量削減



Photo. 4 ポスターセッションの様子

と窒素除去の両立を図る曝気風量制御の実プロセスへの適用」,「下水処理における一酸化二窒素ガスの放出実態調査と放出抑制制御方式の検討」,「火葬炉からの酸性ガス,水銀および微小粒子の排出挙動」の4編の研究発表および質疑応答が行われ,会場の聴講者を含めてのディスカッションが行われました。

引き続き,奨励論文の表彰式が行われ,5編が奨励論文として選考され,清水芳久会長より賞状と副賞が手渡しされました。

講演の部では2件の特別講演と1件の基調講演が実施されました。

特別公演の一つ目は「東日本大震災と仙台市の下水道」と題して,安附太郎氏(仙台市建設局 下水道経営部 主査)より,仙台市が受けた下水道施設の被害状況と,復興状況ならびに浸水・地震対策事業,省エネ・創エネ事業,アセットマネジメントなどの今後の取り組み方針についてご講演を頂戴しました。

また二つ目は「木の力を輝かせる」と題して,小野寺邦夫氏(丸平木材(株) 代表取締役)より,日本の森林資源の危機的状況と,木が本来持つ価値・能力を最大限に引き出し木の力を輝かせ,林業における真の経営価値が見出されることで,この危機的状況が改善される可能性があることが紹介されました。



Photo. 5 特別講演 (小野寺氏)

さらに基調講演では「震災廃棄物処理の新しいコンセプトとその効果」と題して,吉岡敏明氏(東北大学大学院 環境科学研究科 教授)より,仙台市の取り組み事例をもとにリサイクル(材料・原料・燃料・エネルギー)を目的とした,災害廃棄物の分別処理の必要性和災害ごみの自己搬入についてご講演いただき,リサイクルという新たな視点での処理の有用性をご紹介いただきました。



Photo. 6 基調講演 (吉岡氏)

研究発表会後に開催された交流会は片平さくらホールの1Fで開催され,地酒などを楽しみながら,ご来賓,講師の諸先生と参加者が,発表や講演に関する意見交換など活況を呈した場となりました。

翌11月1日(金)の見学会は3カ所。はじめに宮城県北部の仙北平野にある“かぶくりぬま 燕栗沼”へ日の出とともに飛び立つ天然記念物マガンの姿を見学しました。“燕

栗沼”はマガンの国内最大級の越冬地で,平成17年には,国際的に重要な渡り鳥の生息地を保護する「ラムサール条約」の登録湿地に指定されています。集合時間は未明の午前3:30と異例の見学スケジュールにも関わらず35名もの参加者があり,壮大な2万羽を超えるマガンの飛び立ちを観察することができました。

その後,仙台市内へ戻り,20名の参加者と合流し合計55名にて“仙台市南蒲生浄化センター”を見学しました。さらに午後には,宮城県石巻市にある“宮城県石巻ブロック災害廃棄物処理施設”に移動し,発生量500万トン以上といわれた膨大な災害廃棄物の分別・リサイクル・処理の現場を見学し,その後無事に仙台駅・仙台空港にて解散となりました。

最後に,今回の研究発表会ならびに見学会において得られた研究成果や情報交換,議論が今後の環境分野の発展・研究へのワンステップとなり,更に多くの研究成果につながりますことを祈念いたしましてご報告を締めくくります。



Photo. 7 燕栗沼で野鳥観察



Photo. 8 仙台市南蒲生浄化センター 見学



Photo. 9 宮城県石巻ブロック災害廃棄物処理施設 見学